

わが国の原子力発電所の運転実績

Table with columns: 会社名, 発電所名, 炉型, 認可出力 [万kW], 2013年10月 (発電電力量 [MW時], 設備利用率 [%], 稼働時間 [時], 時間稼働率① [%]), 備考. Includes data for various power plants like 東海第二, 北海道, 東北, etc.

備考: *1 一次冷却材中の放射能濃度上昇に伴う点検停止(11/5/7-〈第18回定検中〉)
*2 原子炉冷却材再循環ポンプ軸封部取替に伴う停止(11/3/1-〈第13回定検中〉)
*3 第24回定検中(10/12/10-調整運転〈11/3/13-7/16〉、蓄圧タンク圧力の低下に伴う停止〈11/7/16-9/20〉)

※お断り
圧力プレート設置に伴い、志賀2は135.8万kWから120.6万kWに出力を変更している。各表のデータは、変更後の数値に基づく。

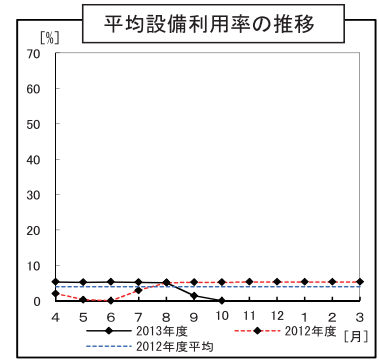


Table titled '炉型別平均設備利用率' for 2013年10月. Columns: 炉型, 基数, 出力 [万kW], 設備利用率 [%]. Rows: BWR (26 units, 2,587.0 MW, 0.0%), PWR (24 units, 2,027.8 MW, 0.0%).

Table titled '電力会社別平均設備利用率' for 2013年10月. Columns: 会社名, 基数, 出力 [万kW], 設備利用率 [%]. Rows: 日本原子力発電 (3 units, 261.7 MW, 0.0%), 北海道 (3 units, 207.0 MW, 0.0%), 東北 (4 units, 327.4 MW, 0.0%), 東京 (13 units, 1,449.6 MW, 0.0%), 中部 (3 units, 361.7 MW, 0.0%), 北陸 (2 units, 174.6 MW, 0.0%), 関西 (11 units, 976.8 MW, 0.0%), 中国 (2 units, 128.0 MW, 0.0%), 四国 (3 units, 202.2 MW, 0.0%), 九州 (6 units, 525.8 MW, 0.0%).

設備利用率 = (発電電力量 / (認可出力 × 稼働時間)) × 100 (%)
時間稼働率① = (発電時間数 / 稼働時間) × 100 (%)
時間稼働率② = ((認可出力 × 稼働時間の合計) / (認可出力 × 稼働時間の合計)) × 100 (%)

10月の原子力発電、全基停止
原産協会の取りまとめによると、10月の国内原子力発電は、唯一稼働していた関西電力大飯発電所3、4号機が9月中旬に定期検査入りしたため、月内を通じ全基停止となった(11上表)。これは、一二年六月以来。
ITER成果
報告会開催
核融合フォーラム
ITER計画と、これに伴い日欧が進める「幅広いアプローチ活動(BA)」を通じて開発された技術の進展を発表する成果報告会が二十七日、東京・港区のニッショーホールで開催される。
ITER計画に係る国内関係各機関の活動を企画・調整する核融合エネルギーフォーラム主催で行われるもので、午前中の会員総会に続き、成果報告会は十三時からとなる。「はやぶさ」に携わった宇宙航空研究開発機構シニアフェローの川口淳一郎氏他の基調講演、国内六企業からの技術報告の他、パネルや機器の展示も予定されている。
申込み(二十二日まで)、詳細は、フォーラムウェブサイトを(http://www.naka.jaea.go.jp/fusion-energy-forum/)参照。
「サイエンスアゴラ」開催
科学未来館他
科学コミュニケーションイベント「サイエンスアゴラ」が十一月九日と十日、日本科学未来館など東京・お台場地域の六会場で開催される。
本紙関連では、北海道大学による最先端がん放射線治療の紹介や、日本原子力研究開発機構による三次元ブロック核図表などで原子核が持つ性質と物質の成り立ちのしくみを実感するワークショップが行われる。
また、地層処分事業を紹介する模型展示や、まじつくりの視点から原子力発電所について考えるポスターセッション、放射線検出器などの展示や実演などもある。
詳細はイベントホームページ(http://www.ist.go.jp/csc/scienceagora/)参照。
IAEA空席ポスト情報
外務省
外務省国際機関人事センターは一日、国際原子力機関(IAEA)の空席見込みポストに関する情報を公表した。
詳細はホームページ(http://www.mofa-irc.go.jp/vacancies/hoshu_iaea.html)を参照。

原子力年鑑 2014
日本原子力産業協会 [監修]
The Nuclear Almanac 2014
世界が注目、フクシマのその後
日刊工業新聞社

原子力年鑑 2014
日本原子力産業協会 監修 ●B5判 ●定価15,750円(税込)
1957(昭和32)年から日本原子力産業会議(現日本原子力産業協会)が発行してきた「原子力年鑑」の2014年度版。福島原発事故関連の章を設け、2012年9月以降の約1年間の動きをとりまとめた。執筆陣には原子力関連の各分野で活躍する専門家を迎へ、国内外の原子力情勢を正確に記録し、解説する。
◆お求めはお近くの書店または日刊工業新聞社ホームページへ
◆主な内容
Part I 潮流—内外の原子力動向
Part II 福島を契機とした原子力発電をめぐる動向
Part III 放射性廃棄物対策と廃止措置
Part IV 各国・地域の原子力動向
●原子力年表〈1895~2013年〉日本と世界の出来事
●原子力関連略語一覧
〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 TEL (03)5644-7410
http://pub.nikkan.co.jp/ FAX (03)5644-7400